

模擬授業研究会の斉藤メモ(2019年11月7日)

授業者：〇〇

範囲：プライバシーの権利

主な感想・代案

- 流石と思わせる安定感がありました。生徒とのやり取り、板書の構成力など、基礎力の高さを感じます。時事ネタを使って、討論をさせる試みも、積極的で良いと思います。
- ただこの授業に関して言えば、授業範囲の狙いと、取り上げる事例とがうまく合致していないような気がします。主発問と京ア二の事件の内容が整合性が取れていないように思うのです。確かにこの事件は、プライバシーの権利と報道の自由の対立軸で見ることができますが、そこに情報化の問題が入ってこないような気がします。
- 私であれば、例えば、大津のいじめによる自殺が起こった事件で、加害者の身元が完全に割れて、写真も含めた情報がネットにあふれたことがありました。こういう例の方が内容には有っています。内容の扱い自体は慎重にすべきですが、中学生ゆえに真剣に取り組むテーマとなりうる可能性もあります。
- 京ア二の事件を使うのであれば、情報化の問題は一旦置いておいて、プライバシーVS 表現の自由の対立軸を押し出した授業の方が分かりやすかったように思います。
- 京ア二の事件に関して、プライバシーの権利を擁護する意見が多い懸念が挙げられていました。私だったら、この問題を考える際に、前に学んだ「公共の福祉」の視点を再検討させるチャンスかなと思いました。より多くの人にとって重要な情報を流すために、一部の人の気持ちを犠牲にしているのか？という問題は、まさに関連すると思うからです。個人の権利を最大限に尊重する軸と共に、集団の福利を重視するという軸からも考えられると、この問題が多角的に考えられる気がします。

【コラム】理論と実践の接点

- テクノロジーの発展と権利擁護の対立が起こるという構図は、これからもどんどん増えていくと思います。そういったときに公民でよくある「効率と公正」の視点から、この問題を捉えることが役立つかもしれません。
- 何らかの答えのない問いと向き合うときに、ただモヤモヤと考えさせることも大切ですし、答えのない問いを皆で考えるというプロセス自体を大切にする、という考え方はワークショップデザインなどの考えでよく出てきます。探究をしようとする関係性自体を大切にするというものです。■参考文献1
- ただもう一つの方法として、答えのない問題を分析する分かりやすいフレームを用意するという方法もあります。これが見方考え方の議論とも繋がるころかなと思います。皆が SNS で発信することができるようになったメリットとそれによって生じる被害事例などがある際に、私たちは SNS を使うべきか否か。その問題を使う際に、「効率と公正」のような軸は参考になると思います。その視点を身に着けられれば、多くのネット問題を論じるフレームになる。そういうこともあるかと思えます。■参考文献2

【参考文献1】デヴィッド・ボーム, ピーター M センゲ他『ダイアログ——対立から共生へ、議論から対話へ』

【参考文献2】橋本康弘編『高校社会「公共」の授業を創る』